

# 手形

手形には、「約束手形」と「為替手形」の2種類があります。

## §1 約束手形とは？

### 約束手形のイメージ図

No. ○○	約束手形
収入 印紙	北海道株式会社 殿
金額	¥1,000,000※
上記金額をあなたまたはあなたの指図人 にこの約束手形と引替えにお支払いいたします。	
令和2年4月1日	
振出地住所 東京都○○区○丁目○○	
振出人	東京建設 代表 東京太郎
支払期日	令和2年7月1日
支払地	東京都○○区
支払場所	○○銀行東京支店

約束手形とは、手形の振出人が、名宛人または指図人に対して、支払期日までに、指定の金額を支払うことを約束した有価証券の一種です。

上図の例では、

「東京建設が、北海道株式会社に、令和2年7月1日までに¥1,000,000 支払う」という意味になります。

振出人 → 手形を発行し、支払期日までにその金額を支払う人のこと。

名宛人 → 手形を受け取り、支払期日までにその金額を受け取る人のこと。

指図人 → 名宛人から、お金を受け取る権利を譲られた人のこと。

## §2 為替手形とは？

### 為替手形のイメージ図

No. ○○ 為替手形	
収入 印紙	北海道株式会社 殿
金額	¥1,000,000※
(受取人) 青森工業	殿またはその指図人へこの為替手形と 引替えに上記金額をお支払いください。
令和2年4月1日 振出地住所 東京都○○区○丁目○○ 振出人 東京建設 代表 東京太郎	支払期日 令和2年7月1日 支払地 東京都○○区 支払場所 ○○銀行東京支店
	引受 令和2年4月1日 東京都○○区○丁目○○ 北海道株式会社 代表 北海道次郎

為替手形とは、手形の振出人が、名宛人に対して、  
「受取人または指図人へ、支払期日までに、指定の金額を支払ってください」  
と委託したことを示す有価証券の一種です。

上図の例では、  
「東京建設が、北海道株式会社に、  
『青森工業へ、令和2年7月1日までに¥1,000,000 支払ってください』  
と委託した。」  
という意味になります。

振出人 → 手形を発行し、名宛人に支払いを委託した人のこと。  
名宛人 → 振出人に代わって、支払期日にその金額を支払う人のこと。  
受取人 → 手形を受け取り、支払期日にその金額を受け取る人のこと。  
指図人 → 受取人から、お金を受け取る権利を譲られた人のこと。

約束手形と為替手形で、言葉の意味が少し違ってきます。  
イメージを捉えて、しっかり確認しておきましょう。

### §3 手形の仕訳

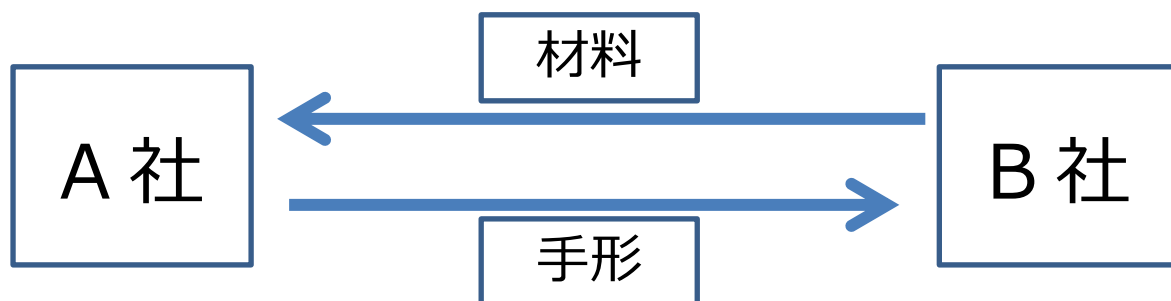
『約束手形』や『為替手形』という勘定科目は**ありません！！**

手形を仕訳するときは、基本的には、  
『支払手形』という**負債**の勘定科目か、  
『受取手形』という**資産**の勘定科目を使います。

約束手形だろうと、為替手形だろうと、  
とにかく「手形で支払った（手形を振り出した）」なら『支払手形』（**負債**）。  
「手形を受け取った」なら『受取手形』（**資産**）です。

#### < 取引例① >

A社はB社より材料¥200,000を購入し、倉庫に搬入した。  
なお、代金は手形を振り出して支払った。



(A社の仕訳)

「材料を購入した」 → 『材料』（資産）の増加  
「手形で支払った」 → 『支払手形』（負債）の増加

材料 200,000 / 支払手形 200,000

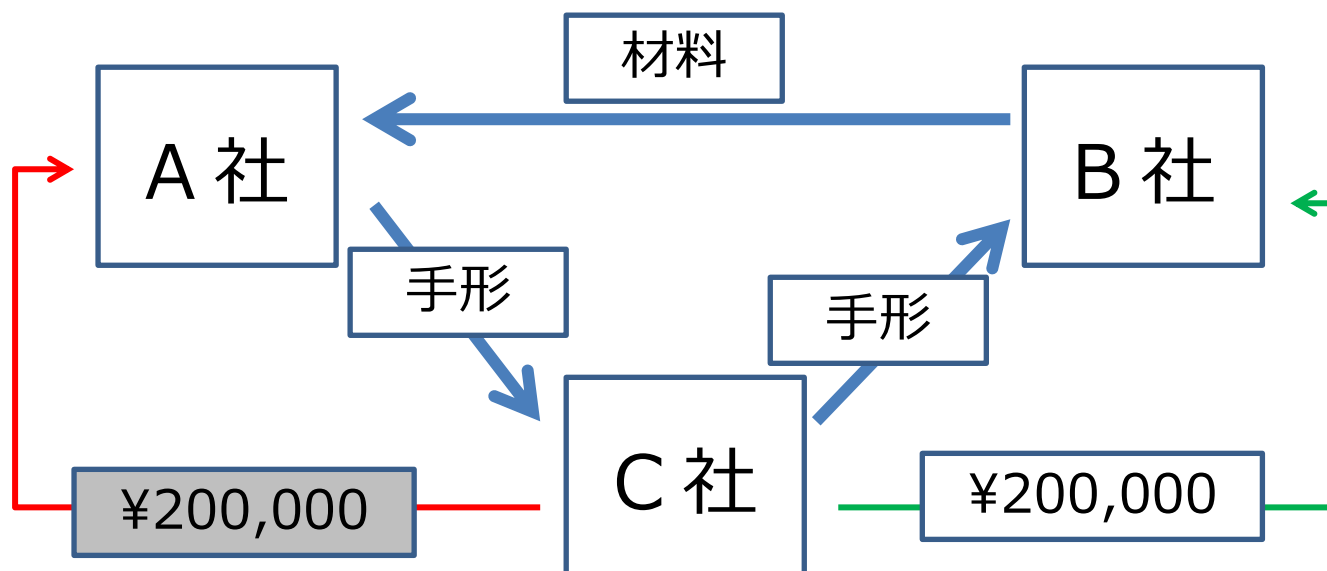
(B社の仕訳)

「材料を売り上げた」 → 『売上』（収益）が発生  
「手形を受け取った」 → 『受取手形』（資産）が増加

受取手形 200,000 / 売上 200,000

< 取引例② >

A 社は B 社より材料¥200,000 を購入し、  
かねて工事未収入金¥200,000 がある C 社宛ての為替手形を振り出した。  
なお、材料は倉庫に搬入した。



A 社は C 社に対して、「かねて工事未収入金¥200,000 がある」ということは、  
A 社は C 社から、『完成工事未収入金』として、¥200,000 を受け取る権利を持っている  
ということです。(図の赤い線)

そして、「C 社宛ての為替手形を振り出した」ということは、  
C 社に対して、「A 社に払うべき¥200,000 を、B 社に払ってください」と連絡し、  
C 社はこれを引き受けたということです。(図の緑の線)

A 社にすれば、C 社から回収した¥200,000 で、B 社への材料代金を支払ったことになり  
ますので、

材料 200,000 / 完成工事未収入金 200,000

B 社は材料を売り上げて、代金を手形で受け取っているのですから、

受取手形 200,000 / 売上 200,000

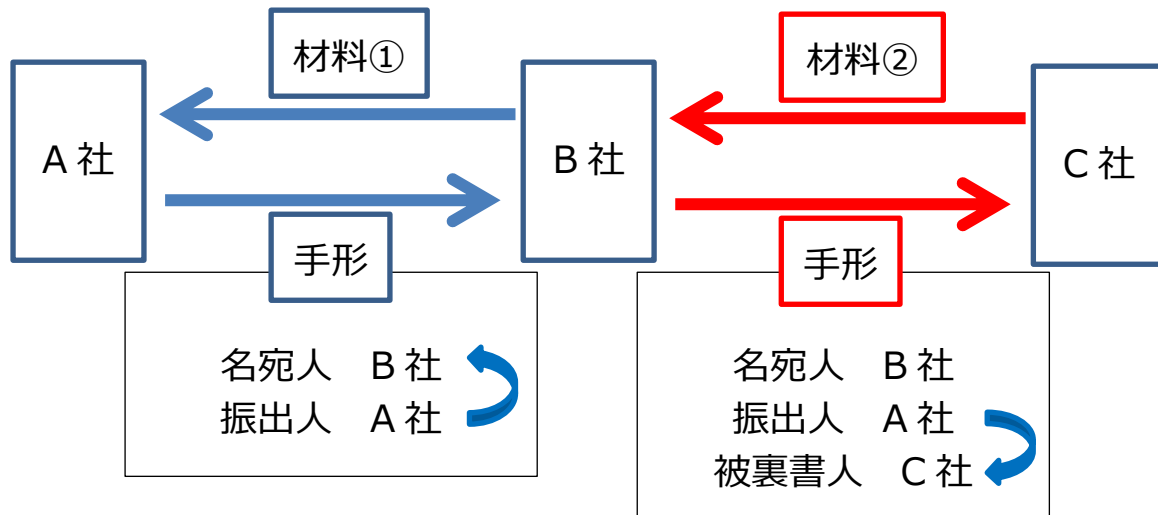
C 社は、A 社への未払金を B 社に手形で支払ったということですから、

工事未払金 200,000 / 支払手形 200,000

となります。

## § 4 - 1 裏書譲渡と偶発債務（遡求義務）

次の図を見てください。



A社が、B社から材料①を購入し、代金は手形を振り出して支払いました。  
この手形の振出人はA社、名宛人はB社ですね。

その後、B社が、C社から材料②を購入し、その代金として、  
「A社から受け取っていた手形」をC社に渡しました。

「A社から受け取っていた手形」は、「A社がB社にお金を払う」という手形です。  
その手形の裏面に、「被裏書人 C社」と書くことによって、  
「A社がC社にお金を払う」手形になるわけです。

このように、手形の裏面に必要事項を記入して、手形を第三者に渡すことを、  
「裏書譲渡」といいます。

手形を裏書譲渡されたC社は、A社からお金を受け取ることができます。  
しかし、A社が倒産してしまい、お金を受け取れなくなった場合は、B社からお金を受け取ることになります。

B社からすれば、無事にA社がC社にお金を払ってくれるまで、  
「もしかしたら、B社がお金を払うことになるかもしれない」という可能性がある。  
ということになります。

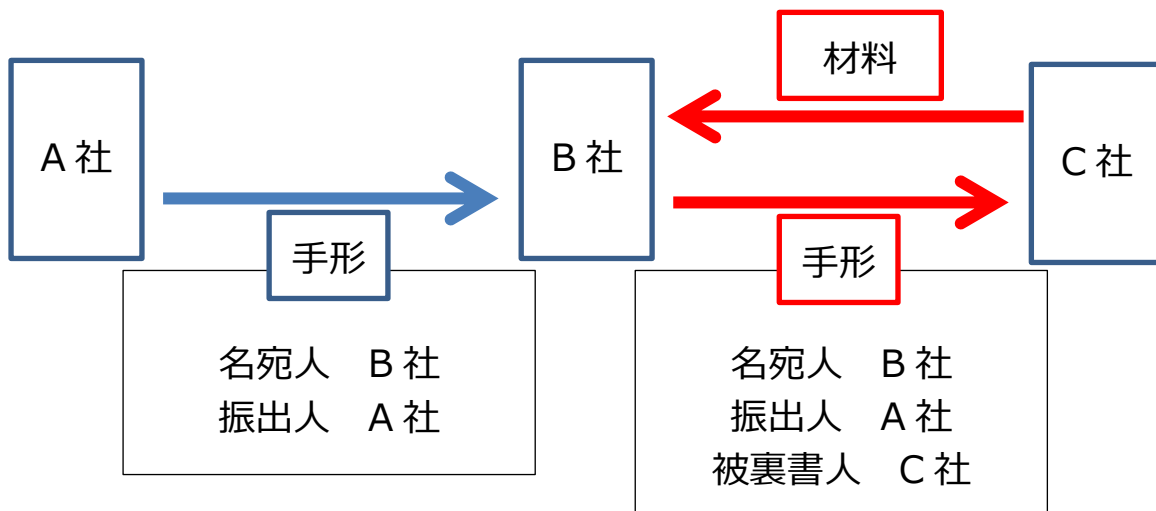
このような、「今は債務となっていないが、将来的に債務となるかもしれない」ものを、「偶発債務（ぐうはつさいむ）」または「遡求義務（そきゅうぎむ）」といいます。

## § 4 - 2 裏書譲渡と偶発債務（遡求義務）の仕訳

裏書譲渡した際の仕訳には、2通りの方法があります。  
「対照勘定」を使う方法と、「評価勘定」を使う方法です。

### < 取引例③ >

B社は、C社から材料¥100,000を購入し、A社振り出しの約束手形を裏書譲渡した。  
なお、材料は倉庫に搬入された。



#### ■ 対照勘定によるB社の仕訳

「材料を購入した」 → 『材料』（資産）の増加  
「手形を裏書譲渡した」 → 『受取手形』（資産）の減少

C社に渡した手形は、A社から受け取った手形です。  
受け取った手形ということは、『受取手形』として処理した手形ということです。

これを渡したのですから、『受取手形』の減少として処理します。

さらに、この裏書譲渡にともなう偶発債務を、  
『手形裏書義務見返』と『手形裏書義務』という対称勘定で記帳します。

従って、対照勘定による B 社の仕訳は、

材料	100,000	/	受取手形	100,000
手形裏書義務見返	100,000	/	手形裏書義務	100,000

となります。

この手形が無事に決済された（無事に A 社から C 社に代金が支払われ、B 社の偶発債務が消滅した）場合は、対照勘定を逆仕訳して、これを取り消します。

手形裏書義務	100,000	/	手形裏書義務見返	100,000
--------	---------	---	----------	---------

## ■ 評価勘定による B 社の仕訳

評価勘定による方法では、『裏書手形』という勘定科目を使います。  
『裏書手形』勘定によって、偶発債務を表しているわけです。

材料を購入し、その代金として裏書譲渡したのですから、

材料	100,000	/	裏書手形	100,000
----	---------	---	------	---------

となります。

無事に決済されたら、『裏書手形』と『受取手形』で相殺します。

裏書手形	100,000	/	受取手形	100,000
------	---------	---	------	---------

## ■ C 社の仕訳

「対照勘定」と「評価勘定」は、あくまでも B 社の仕訳に関わることですので、C 社の仕訳は、どちらにしても、

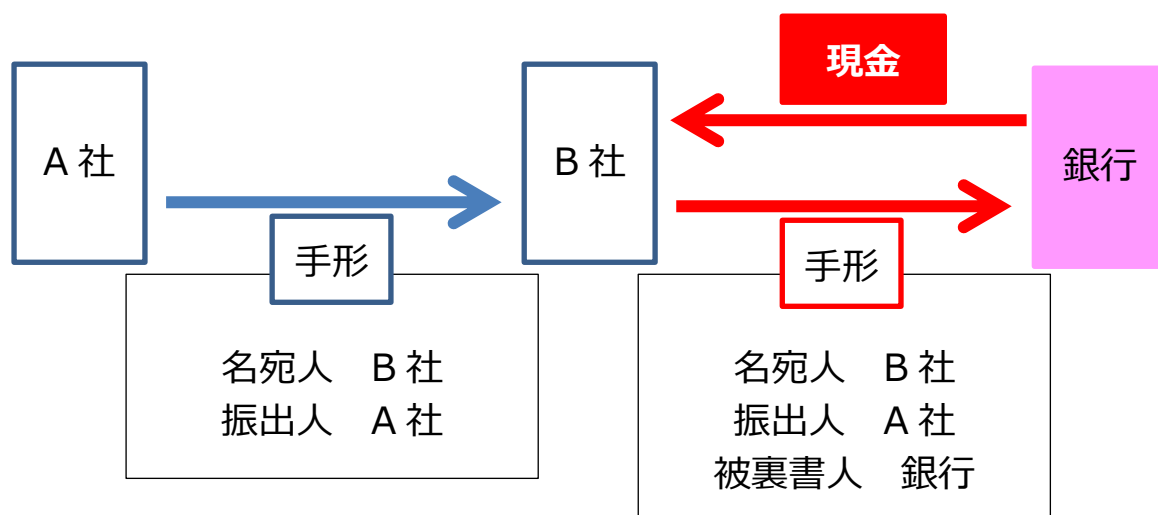
受取手形	100,000	/	売上	100,000
------	---------	---	----	---------

となります。

とにかく手形を受け取ったら『受取手形』です。

## § 5 手形の割引

手形の割引とは、手形を銀行に売却して（手形を銀行に裏書譲渡して）換金することをいいます。



この場合、A 社は銀行にお金を支払うことになりますが、もし A 社が支払えない場合は、B 社が代わりに支払うことになります。

従って、手形の割引に際しても偶発債務が発生することになります。

### < 取引例④ >

B 社は、A 社振り出しの約束手形¥100,000 を銀行で割り引いた。  
割引料として¥1,000 が差し引かれ、残額は当座預金とした。

#### ■ 対称勘定による仕訳

「手形を銀行で割り引いた」	→	『受取手形』（資産）の減少
「割引料を差し引かれた」	→	『手形売却損』（費用）の発生
「残額を当座預金とした」	→	『当座預金』（資産）の増加

「A 社振り出しの約束手形を銀行で割り引いた」ということは、A 社から受け取っていた手形『受取手形』を銀行に渡したわけですから、『受取手形』の減少として処理します。



また、割引料¥1,000 を差し引かれたということは、  
¥100,000 の手形を売却したにもかかわらず、¥99,000 しか貰えなかった  
ということなので、差額¥1,000 の『手形売却損』が発生しています。

また、偶発債務を、  
『手形割引義務見返』と『手形割引義務』の対照勘定で記帳します。

従ってこの仕訳は、

当座預金	99,000	／	受取手形	100,000
手形売却損	1,000	／		
手形割引義務見返	100,000	／	手形割引義務	100,000

となります。

この手形が無事に決済されたら、対照勘定を逆仕訳して、これを取り消します。

手形割引義務	100,000	／	手形割引義務見返	100,000
--------	---------	---	----------	---------

## ■ 評価勘定による仕訳

評価勘定による方法では、『割引手形』という勘定科目を使います。

当座預金	99,000	／	割引手形	100,000
手形売却損	1,000	／		

無事に決済されたら、『割引手形』と『受取手形』で相殺します。

割引手形	100,000	／	受取手形	100,000
------	---------	---	------	---------

## §6 手形の更改

手形の更改とは、振出人が支払期日になってもその支払いができない場合に、支払期日を延期してもらうことです。

その際、支払期日や金額などを書き換えた新しい手形を振り出し、古い手形と交換します。

期日の延期に伴い発生した利息は、手形の額面金額に含める場合と、別途現金などで支払う場合があります。

### < 取引例⑤ >

A社は、B社に振り出した約束手形¥100,000の支払期日となったが、都合がつかないため支払延期を申し入れ、B社の了承を得た。  
これにより、支払延期による利息¥5,000を額面金額に含め、新しい手形を振り出した。

「新しく手形を振り出した」	→ 古い『支払手形』（負債）が減少
	→ 新しい『支払手形』（負債）が増加
「延期による利息がある」	→ 『支払利息』（費用）の発生

最初に振り出していた『支払手形』¥100,000を取り消して、新しい『支払手形』¥105,000を振り出す処理をします。

従ってこの仕訳は、

支払手形	100,000	/	支払手形	105,000
支払利息	5,000	/		

となります。

借方の『支払手形』¥100,000が古い約束手形、  
貸方の『支払手形』¥105,000が新しい約束手形ですね。

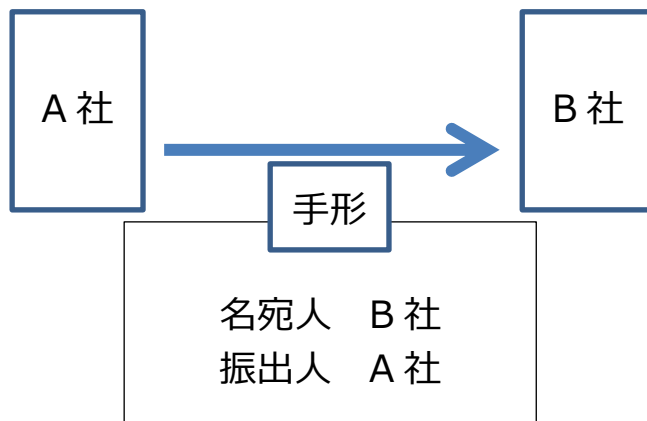
## §7 - 1 手形の不渡り

支払期日になっても決済されなかった手形のことを、「不渡手形」といいます。

不渡手形を持っている場合、その手形の振出人または裏書人に対して、代金の支払いを請求することができます。（償還請求といいます。）

それでは、手形が不渡りとなる 3 つのケースについて見ていきましょう。

## §7-2 手持の手形が不渡りとなった場合の処理



上図で、B社の持つA社振り出しの約束手形が不渡りになったとします。

手持の手形が不渡りになったということは、  
『受取手形』が『不渡手形』になったということです。

不渡手形    〇〇    /    受取手形    〇〇

と、振り替えます。

### < 取引例⑥ >

B社が所有する、A社振り出しの約束手形¥100,000が不渡りとなり、  
償還請求を行った。

なお、これに伴う諸費用¥3,000は現金で支払った。

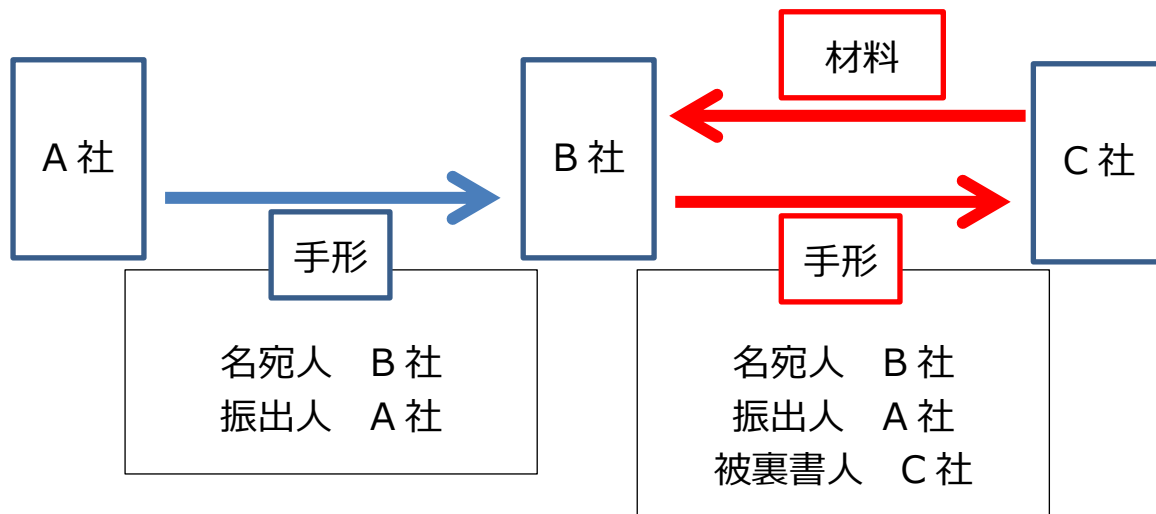
償還請求に伴う費用は、『不渡手形』勘定に含めます。

従ってこの仕訳は、

不渡手形	103,000	/	受取手形	100,000
		/	現金	3,000

となります。

### § 7 - 3 裏書譲渡した手形が不渡りとなった場合の処理



B社が、A社振り出しの約束手形を、C社に裏書譲渡しました。  
その後、A社が倒産し、不渡りとなったため、B社は、C社より償還請求をされました。

この場合も、対照勘定による仕訳と、評価勘定による仕訳の、2通りの処理の仕方があります。

#### < 取引例⑦ >

B社は、A社振り出しの約束手形¥100,000を、C社に裏書譲渡していたが、A社が倒産して不渡りとなり、C社より償還請求を受けた。  
このためB社は、小切手を振り出してこの手形を買い戻した。

#### ■ 対照勘定による仕訳

(裏書譲渡したとき)

材料	100,000	/	受取手形	100,000
手形裏書義務見返	100,000	/	手形裏書義務	100,000

(不渡手形を買い戻したとき)

不渡手形	100,000	/	当座預金	100,000
手形裏書義務	100,000	/	手形裏書義務見返	100,000

不渡手形を買い戻したことによって、  
偶発債務（対照勘定）も消えていることに注意しましょう。

■ 評価勘定による仕訳

（裏書譲渡したとき）

材料 100,000 / 裏書手形 100,000

---

（不渡手形を買い戻したとき）

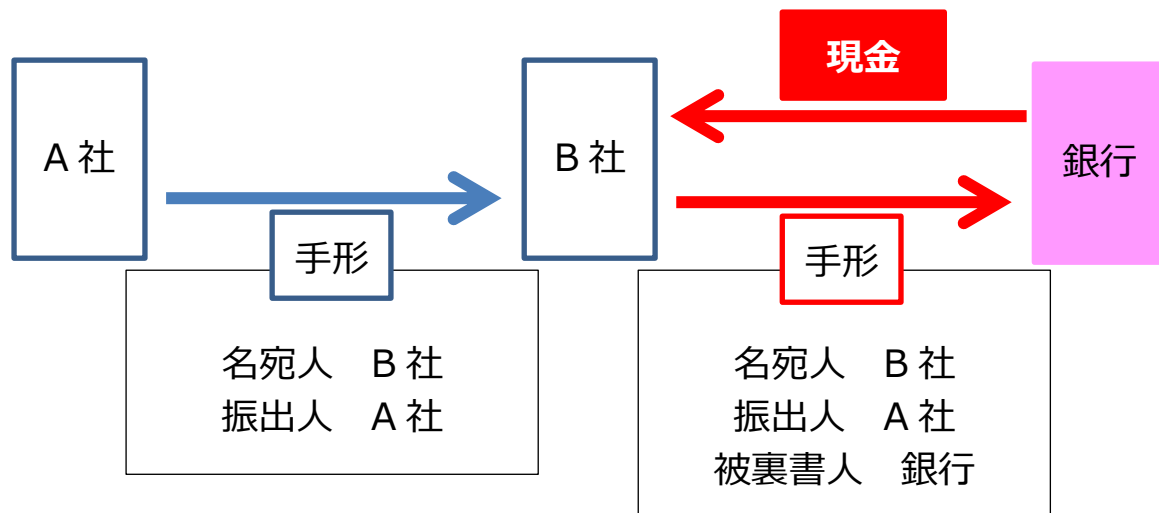
不渡手形 100,000 / 当座預金 100,000

裏書手形 100,000 / 受取手形 100,000

---

不渡手形を買い戻したことによって、  
偶発債務（『裏書手形』勘定）も消えていることに注意しましょう。

## § 7 - 4 割り引いた手形が不渡りとなった場合の処理



B社は、A社振り出しの約束手形を、銀行で割り引いていました。  
その後、A社が倒産し、不渡りとなったため、B社は、銀行より償還請求をされました。

この場合も、対照勘定による仕訳と、評価勘定による仕訳の、2通りの処理の仕方があります。

### < 取引例⑧ >

B社は、A社振り出しの約束手形¥100,000を、銀行で割り引いていたが、  
A社が倒産して不渡りとなり、銀行より償還請求を受けた。  
このためB社は、小切手を振り出してこの手形を買い戻した。

#### ■ 対照勘定による仕訳

(裏書譲渡したとき)

材料	100,000	/	受取手形	100,000
手形割引義務見返	100,000	/	手形割引義務	100,000

(不渡手形を買い戻したとき)

不渡手形	100,000	/	当座預金	100,000
手形割引義務	100,000	/	手形割引義務見返	100,000

不渡手形を買い戻したことによって、  
偶発債務（対照勘定）も消えていることに注意しましょう。

■ 評価勘定による仕訳

(裏書譲渡したとき)

材料 100,000 / 割引手形 100,000

---

(不渡手形を買い戻したとき)

不渡手形 100,000 / 当座預金 100,000

割引手形 100,000 / 受取手形 100,000

---

不渡手形を買い戻したことによって、  
偶発債務（『割引手形』勘定）も消えていることに注意しましょう。



## §8 営業外手形

直接、工事に関わらない取引によって発生した手形を、営業外手形といいます。

### < 取引例⑨ >

次の各取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 材料の購入代金¥50,000 を、約束手形を振り出して支払った。
- (2) 受注した工事の代金¥500,000 を、約束手形で受け取った。
- (3) 事務所の家賃¥50,000 を、約束手形を振り出して支払った。
- (4) 貸付金の利息¥50,000 を、約束手形で受け取った。

#### (1) の仕訳

材料 50,000 / 支払手形 50,000

工事に関わる取引ですので、『支払手形』勘定で処理します。

#### (2) の仕訳

受取手形 50,000 / 完成工事高 50,000

工事に関わる取引ですので、『受取手形』勘定で処理します。

#### (3) の仕訳

支払家賃 50,000 / 営業外支払手形 50,000

工事とは関係のない取引ですので、『営業外支払手形』で処理します。

#### (4) の仕訳

営業外受取手形 50,000 / 受取利息 50,000

工事とは関係のない取引ですので、『営業外受取手形』で処理します。

## §9 手形貸付金・手形借入金

銀行などからお金を借りる場合、通常は「借用証書」を取り交わしますが、「借用証書」の代わりに、手形を使用することがあります。

手形を振り出すことによって、借用証書を取り交わす手間を省くと同時に、期日までに返済することを約束するわけですね。

この場合の手形は、通常の営業取引による手形ではありませんし、また、借用証書を使わないため、『借入金』勘定、『貸付金』勘定で処理することもできません。

そこで、『手形貸付金』勘定、『手形借入金』勘定で処理します。

### < 取引例⑩ >

A社は、B社より、約束手形を振り出して、現金¥1,000,000を借り入れた。  
これにより、B社の当座預金口座に、利息¥2,000を差し引いた残額が振り込まれた。  
A社、B社、それぞれの仕訳を示しなさい。

#### (A社の仕訳)

「手形を振り出してお金を借りた」	→	『手形借入金』（負債）の増加
「当座預金に振り込まれた」	→	『当座預金』（資産）の増加
「利息を差し引かれた」	→	『支払利息』（費用）の発生

当座預金	998,000	／	手形借入金	1,000,000
支払利息	2,000	／		

#### (B社の仕訳)

「手形を受け取ってお金を貸した」	→	『手形貸付金』（資産）の増加
「現金で貸した」	→	『現金』（資産）の減少
「利息を差し引いた」	→	『受取利息』（収益）の発生

手形貸付金	1,000,000	／	現金	998,000
		／	受取利息	2,000

< 取引例⑪ >

次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 材料¥100 を購入し、代金は現金で支払った。
- (2) 材料¥100 を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。
- (3) 材料¥100 を購入し、代金は約束手形を振り出して支払った。
- (4) 材料¥100 を購入し、代金は月末払いとした。
- (5) 事務用品¥100 を購入し、代金は約束手形を振り出して支払った。
- (6) 事務用品¥100 を購入し、代金は月末払いとした。

(1) の仕訳	材料	100	/	現金	100
(2) の仕訳	材料	100	/	当座預金	100
(3) の仕訳	材料	100	/	支払手形	100
(4) の仕訳	材料	100	/	工事未払金	100
(5) の仕訳	事務用消耗品費	100	/	営業外支払手形	100
(6) の仕訳	事務用消耗品費	100	/	未払金	100

< 取引例⑫ >

次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 完成工事代金¥100 を、現金で受け取った。
- (2) 完成工事代金¥100 を、得意先振り出しの小切手で受け取った。
- (3) 完成工事代金¥100 を、自己振り出しの小切手で受け取った。
- (4) 完成工事代金¥100 を、得意先振り出しの約束手形で受け取った。
- (5) 完成工事代金¥100 を、自己振り出しの約束手形で受け取った。
- (6) 完成工事代金¥100 を、月末に受け取ることにした。
- (7) 貸付金の利息¥100 を、得意先振り出しの約束手形で受け取った。
- (8) 貸付金の利息¥100 を、月末に受け取ることにした。

(1) の仕訳	現金	100	/	完成工事高	100
(2) の仕訳	現金	100	/	完成工事高	100
(3) の仕訳	当座預金	100	/	完成工事高	100
(4) の仕訳	受取手形	100	/	完成工事高	100
(5) の仕訳	支払手形	100	/	完成工事高	100
(6) の仕訳	完成工事未収入金	100	/	完成工事高	100
(7) の仕訳	営業外受取手形	100	/	受取利息	100
(8) の仕訳	未収入金	100	/	受取利息	100